

令和七年二号

《第一四六号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

きさぎさ 如月の祭典・行事案内

【月次祭】 九時半

五日(水)

十七日(月) ※ 祈年

祭に代える

【節分祭】 十五時

二日(日)

※豆撒き神事十五時十五分

【紀元節祭】 九時半

十一日(火)

【祈年祭】 九時半

十七日(月)

【天長節祭】 九時半

二十三日(日)

【昭和天皇御製】(第一二四代)

と引揚者に対して

外国につらさしのびて帰りこし
人を迎へむまごころをもて

(昭和二十四年)

令和七年新年恒例の「歌会始の儀」が一月二十二日皇居・宮殿にて『夢』をお題に行はれました。

一般応募の一万六千二百五十首の中から入選した十人の歌が古式ゆかしく披露されました。

陛下の御製は、

ま 旅先に出会ひし子らは語りたる
目見輝かせ未来の夢を

陛下は昨年、皇后陛下と岡山、佐賀、岐阜、大分の四県を行幸啓され、また、能登半島地震で被災した石川県をも見舞はれました。その折に、現地の児童や生徒から「歓迎のことば」の作文発表をお聞きになり、その中に、「未来の夢」の発表に感動され、この度の御製にされたと思はれます。

わが国の子らが瞳を輝かせて日本国の未来をおもひ、そして、希望ある夢を持てるやうに今の責任ある大人は真剣に考へなくてはなりません。

二月十一日(火)はわが国の建国記念の日です。昭和二十年までは国家行事として国民挙つてお祝ひをした「紀元節」の目出度い日でありました。

残念ながら敗戦によりこの祭日はGHQによつて取り消されました。日本国が名実ともに独立国家であるならば、国家の祝日として、政府の主権により盛大に祭典を挙行することです。

【推薦図書】

『日本美のこころ』

小学館文庫

彬子女王 著 千二百十円

『私の日本美のこころを探す旅は今も続いている。この本のカバーデザインになっている雪の結晶は、一つとして同じものはないといわれるほど多様性がある。日本文化も、地域ごとに様々な異なった文化があつたり、海外の文化が日本文化として形を変えて根付いていたり、多様性があり、私には雪の結晶と日本文化が重なって見える。掌にのつたらはかなくも消えてしまう雪のように、この先失われてしまう日本文化もたくさんあるのだと思う。でも、その刹那的な美しさを記録に、そして記憶にとどめていくために、これからも旅を続けていきたい。』(へあとがきに代えてより)



『間違いだらけの家族観』

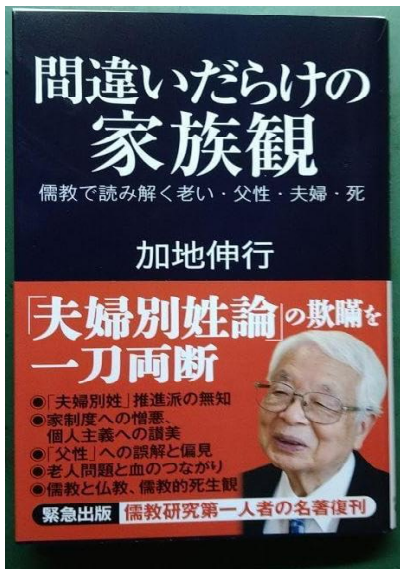
～儒教で読み解く老い・父性・夫婦・死～

加地伸行 著 千二百十円

産経セレクト

『・・・今、必要なことは、われわれ日本人の家族の根底にあるものを求め、〈家族の思想〉としてそこを基盤とすることである。その基盤とはすなわち〈血の連続〉・〈生命の連続〉ということである。

それは、実は〈儒教的死生観〉のことなのである。この〈儒教的死生観〉を、大半の日本人はもう忘れてしまい、知らないでいる。もしそれを本当に身につけていたならば、実感をもつて確たる依るべき精神を持つことができ、自己責任の根底を得ることができであろう。そうあったとき、たとい某国の攻撃があろうと逃げることなく、家族の重大な局面に当たっても利己的立場に終始することはなく、また軽々しく他人の生命を絶ったり、いじめたりすることとはなくなるであろう。《はじめにから》



気ままに『万葉集』に続き、気ままに『古事記』を令和元年五月から連載したのは、筆者自身の勉学の為でした。「古事記」を読まずして日本を語ることにはできません。國學院大学神道学科（当時）の授業で学んではゐましたが、じつくりと楽しみながら読むのは初めてのことでした。

総代さんや崇敬者の方々にも「古事記」に親しんで貰ひたい念ひで続けてきました。計画では中巻の十二代景行天皇の倭建命の物語までを考へてゐましたが、都合により初代神武天皇までとしました。御寛恕を願ふと共に、「古事記」を身近なものとして頂きたく切に願ふ次第です。お付き合ひ頂き感謝を申し上げます。

参考書とした書籍を紹介してをきます。

・『古事記 全訳注』次田真幸 講談社学術文庫

・『現代語 古事記』竹田恒泰 学研M文庫

・『古事記』池澤夏樹訳 河出文庫

・『古事記』角川書店編 角川ソフィア文庫

想像を絶する数多の参詣者

これほどの初詣の人波には言葉を失ひました。平成二十五年巳年にも多くの参詣者にお参りに来て頂きましたが、それを遙かに超えるものでありました。七百以上の麻里布小学校校庭を駐車場にお借りしてゐましたが、それもあつといふ間に満車に、近隣の道路も

あちこちで渋滞となりました。

これほどまでに当神社が注目され、多く人々から初詣の対象となつたのには、巳年を迎へるに当たり多くのマスメディア（テレビ、雑誌等）の影響があります。

それにしても日本人の干支への執着は、やはり日本の文化でせうか。日本人の文化といえ、参拝までに一時間も行列をなして、尚も静かに辛抱強く参道を進む参詣者の姿もやはり国民性でせうか。



遠近より初詣に來られた方々を始め、歓待の心持ちで受け入れたくださった地域の方々に心より感謝を申し上げます。

2・7（金）は「北方領土の日」です。

国後島・択捉島・歯舞群島・色丹島の返還をロシアに要求してゐます。この日は一八五五年（安政元年）伊豆の下田にて「日露通商条約」が結ばれ、択捉島とウルップ島間を国境と定めた日であります。